

林野庁 近畿中国森林管理局

箕面森林環境保全ふれあいセンター・こだま通信



箕面森林環境保全ふれあいセンターでは、主に京都、大阪の都市周辺の国有林野をフィールドとして、NPO、ボランティア、地域住民等による自主的な森林づくり、里山の整備、自然再生活動、森林環境教育などへの技術指導等の支援に取り組んでいます。

グループ対抗里山デジカメ選手権 ～現在作品募集中～

「身近な森林(もり)の再発見!!」をテーマとして、里山の再生・整備や森林環境教育を主眼に置き、学校、ボランティア、企業・家族・友達などのグループが共同作業で制作したデジタル写真(3枚の組写真)を8月31日(水)まで募集しています。

作品は里山に代表される身近な森林を対象として、森林の中に暮らす動植物や森林づくり活動、森林環境教育の推進などの一瞬を切り取った写真と、今年は国連が定める「国際森林年」にあたることから、そのテーマである「森を歩く」に関する写真も募集していますので、より多くのグループの皆様からのご応募をお待ちしています。

また、最終審査会については毎年、近畿中国森林管理局周辺(大阪市北区天満橋)で開催される「水都(すいと)おおさか森林(もり)の市」※にあわせ、10月8日(土)に公開で実施することとしています。

詳しくは、当ふれあいセンターのホームページ(http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/satoyama/dejikame/dezikame-senshuken.html)をご覧ください。

※今年は『お祭り気分で、楽しんで、学んで、遊んで、お買い物。楽しさ、もりもり「森林(もり)の市」』と題して、10月8日(土)・9日(日)の2日間、近畿中国森林管理局、OAP、毛馬桜之宮公園周辺にて開催を予定しており、現在「水都おおさか森林の市」実行委員会において、木工体験など楽しいイベントを企画しているところです。

平成22年度 林野庁長官賞作品

只今、作品募集中!!

平成23年度グループ対抗 里山デジカメ選手権

身近な森林の再発見!!

応募メカ 平成23年 8月31日(水)

審査員 (写真家) 今森 光彦 氏 (農学博士) 只木 良也 氏 (コーディネーター) 青山 佳世 氏

林野庁長官賞 (賞状・副賞) 水都おおさか森林の市 実行委員会賞賞 (賞状・副賞) 近畿中国森林管理局長賞 (賞状・副賞) ※最終審査に残った賞状の付与にも、本賞を贈呈します。

※ 送り先&お問い合わせ ※

林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8番75号 近畿中国森林管理局内
TEL: 06-6881-2013 FAX: 06-6881-2055
URL: http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/
e-mail: ke_fureai@rinya.maff.go.jp

主催 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
共催 豊地ネットワーク、水都おおさか森林の市実行委員会
協賛 (株)ニコソ
後援 朝日新聞大阪本社 / (株)大阪放送局 / (公財)森林文化協会
毎日新聞大阪本社 / 産経新聞大阪本社

- 2~3名のグループで 里山の写真を撮る
《ジャンル》
① 伊勢丹系グループ (小学生~高校生)
② 森林・林業に関するグループ
③ 一般グループ (15歳以上のデジタル写真も可)
- ホームページまたは TEL・FAXで 資料 & 応募票を請求!
応募票・資料を送ってください
- 応募する!!
応募作品は...
・A4用紙に印刷した 写真3枚1組 (応募票に必要事項を記入し 各写真ウラ面に貼付)
必ず、メッセージ(400~600字) を書き同封してください!
各写真のウラに 応募票(①~③) を貼ってください
- ★最終審査
最終審査に残った作品に選ばれる応募作品の番号データ (JPG) をのびに郵送させていただきます。
10月8日(土) 近畿中国森林管理局で公開審査・表彰を行います。
1名分(小・中・高校生の計+先生または保護者1名)の旅費は出ます。
3分間以内のスピーチを行っていただきますが、乗られぬ場合は代読をいたします。
- ★表彰式
グループ対抗 里山デジカメ選手権
林野庁 近畿中国森林管理局 大賞人 栄えぞう!

平成23年 8月31日(水) 締切です!

10月8日・9日の2日間、近畿中国森林管理局周辺で「水都おおさか森林の市2011」も開催するよ!

応募作品について

- 入選作品・応募作品の確保は、主催者に帰属します。主催者が主催、発表、後援する展覧会等及び印刷物、webサイト、出版物などに複製が可能なことがあります。
- 応募作品は返却いたしません。
- 応募作品の数量は10枚以上は望みますが、万一の落選に対する責任は負いかねますのでご了承ください。
- 本選手権の応募作品に加盟の個人情報は、本選手権の運営に必要な範囲で利用します。応募者の同意なく、利用目的を越えて利用することはありません。

「グループ対抗里山デジカメ選手権」のPR ～公共施設で入選作品の展示を実施～

7月15日(金)から8月1日(月)にかけて、兵庫県立一庫(ひとくら)公園ネイチャーセンター(兵庫県川西市国崎)の展示施設をお借りし、平成23年度作品募集のPRも兼ねて、平成22年度入選作品の展示を実施しました。

一庫公園は、園内の林をクヌギ生産の見本林として里山の再生に取り組んでおり、野鳥や昆虫、植物等の一庫の自然を観察することもできる公園であり、夏休み期間中、多くの家族や子どもたちが訪れることが見込まれるため、今回初めて当施設で展示を実施し、「グループ対抗里山デジカメ選手権」のPRを行いました。

第2弾として、8月23日(火)から9月6日(火)にかけて、写真家・入江泰吉氏の写真展示で有名な奈良市写真美術館(奈良市高畑町)の展示施設をお借りし、同じく展示及びPRを行うことにしています。



一庫公園での作品展示及び観覧の様子

「オオクワガタの棲(す)める森づくり」の森林整備活動 ～ボランティアの協力のもと下刈り作業を実施～

6月9日(木)に箕面国有林エキスポの森(大阪府箕面市)において、当ふれあいセンターと京都大阪森林管理事務所が主催し、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会の協力のもと、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」の植樹箇所である展望台周辺に繁茂するカラスザンショウ、アカメガシワなどの抜き取り作業を実施しました。当日は平日にもかかわらず、管理運営協議会の8団体から27名の方に参加していただき、当方のスタッフ9名を加えて36名が従事しました。

作業の箇所は、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」の一環として小学生、幼稚園児、ボランティア、地域住民などに学校や家庭等で育てていただいたクヌギ、コナラの苗木を昨年春から植樹してきた箇所です。処理の対象としたカラスザンショウ、アカメガシワは非常に成長が早く、植樹したクヌギ、コナラなどの苗木の成長を阻害する恐れがあること、また、今年は秋に植樹行事を予定しており、とげのあるカラスザンショウなどは植樹の際、参加者の手を傷つける心配があることから、幹の柔かいこの時期に抜き取り作業を実施しました。

作業に参加した皆さんには、カラスザンショウのとげに四苦八苦しながらも懸命に抜き取っていただき、おかげさまでほぼ予定どおり作業を進めることができました。



作業前の全体打合せの様子



抜き取り作業の様子

大学生を対象に体験林業 ～植樹体験、木工クラフト等を実施～

6月22日(水)に箕面国有林エキスポの森において、大阪産業大学人間環境学部3回生16名を招いて体験林業を実施しました。

当日は授業の一環ということで3時間と短い時間でしたが、箕面森林官による国有林の概要説明をはじめ、「オオクワガタの棲(す)める森づくり」の植樹体験として、将来きれいな花が咲くことを祈り、ウワミズザクラを25本植樹していただきました。その他にも当ふれあいセンターで作成した森林環境教育推奨事例集の中から、専門器具を使い木の葉から二酸化炭素と酸素の量の測定や木の円盤など森の恵みを使った木工クラフトも体験してもらい、今回参加した皆さんは国有林に来るのも、こういった体験をするのも全てが初めてであり、興味津々楽しんでいただいたと思います。

最後に計画部長から、「国際森林年」のPRとともに、「植樹した苗木を大きく育てるには下刈りなどの手入れを行っていく必要があるので、そういった作業にも参加してもらいたい」とお願いし、体験林業を終了しました。



箕面森林官が国有林の概要を説明



木の葉から二酸化炭素と酸素の量を測定



苗木を植え替える再生段ボール植木鉢を作製



現地にて植樹作業を体験



一列に仲良く並んで植樹作業を実施



木の円盤などを使い木工クラフトを体験

森林環境教育セミナーの開催 ～小・中学校、幼稚園の先生を対象に実施～

8月10日(水)に箕面国有林勝尾寺周辺において、箕面市の小・中学校経験2年目の先生や豊中市の小学校の先生、今回から幼稚園の先生も加わり、計23名に参加してもらい、京都大阪森林管理事務所とボランティア団体の協力を得ながら、森林環境教育セミナーを開催しました。

森林環境教育セミナーは、学校教育における森林環境教育の推進を目的として、箕面市教育委員会との共催により平成17年度から実施し、今回で7回目の開催となります。

今回のセミナーの内容は、従来の京都教育大学の山下宏文教授による講義「森林環境教育の重要性と進め方」、箕面森林官による箕面国有林の概要説明、間伐体験に加えて、当ふれあいセンターで作成した森林環境教育推奨事例集の中から、間伐に付随した事例として「木の高さを目測する」、「木の年輪を数えよう」、「間伐、ナメコの植菌」を実践してもらいました。

セミナーの終わりには一日を振り返ってもらい、参加した先生からは、山下教授の講義を聴いて「森林面積が何年も変わっていないことは知らなかった」、「間伐を体験して「木を伐り倒す体験はめったにできないことでよい経験になった」、全般としては「自分たちで木を伐ったりナメコを植えたり、普段の生活の中で経験できないことができてよかった。普段木に目を向けることはあまりなかったけれど、今後は意識してみようと思う」、「子どもたちにも自然の中に入って、木にさわったり葉にさわったりして自然に近づく体験をしてほしい」などの感想が聞かれ、今回楽しく体験したことや推奨事例集の楽しい事例を、学校の授業等を通して先生から子どもたちに伝えていただくことを期待するところです。

最後に指導普及課長から、「国際森林年」のPRとともに、「森林環境教育の場として、皆さんの身近にある箕面国有林を活用してほしい」とお願いし、セミナーを終了しました。



山下先生による講義



箕面森林官による国有林説明



ボランティアの指導のもと間伐・枝払いを体験



スギの樹高を目測



輪切りしたヒノキの年輪を数える



伐り出したヒノキ丸太にナメコを植菌



林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林環境保全ふれあいセンター
TEL:06-6881-2013/FAX:06-6881-2055 URL:http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/index.html
〒530-0042 大阪市北区天満橋一丁目8-75 近畿中国森林管理局3F

